

資料 2 第 129 回火山噴火予知連絡会について

平成 26 年 6 月 3 日、第 129 回火山噴火予知連絡会が開催された。同連絡会では、全国の火山活動の評価のほか、桜島と西之島などの火山活動について特に重点的に検討を行い、委員及び関係機関からの報告をもとにとりまとめた。その結果を気象庁が以下のとおり発表した。

第 129 回火山噴火予知連絡会 全国の火山活動の評価

第 128 回火山噴火予知連絡会（平成 26 年 2 月 25 日）以降の全国の火山活動について検討を行い、結果を以下のとおり取りまとめました。

○全国の主な火山活動

今期間（平成 26 年 2 月 25 日～6 月 3 日）、桜島、諏訪之瀬島で噴火が発生しました。また、西之島では新たに形成された陸地の拡大の継続が認められました。

桜島〔火口周辺警報（噴火警戒レベル 3）〕

昭和火口の噴火活動は、前期間（平成 25 年 10 月～平成 26 年 1 月）より低下したものの依然活発な状態で経過しました。爆発的噴火は今期間 114 回発生し、噴火による噴煙の最高の高さは火口縁上 4,500m、大きな噴石が最大 3 合目（昭和火口より 1,300～1,800m）まで達しました。また、火口周辺にとどまるごく小規模な火砕流が 1 回発生しました。

地殻変動観測では、桜島島内で山体が隆起・膨張する傾向がみられます。また、始良カルデラ深部の膨張は、停滞していますが、長期的には膨張が進行してきており、引き続き活発な噴火活動が継続すると考えられますので、火山活動の推移に注意してください。昭和火口及び南岳山頂火口から概ね 2 km の範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石及び火砕流に警戒してください。

西之島〔火口周辺警報（入山危険）〕

2013 年 11 月 20 日に南東海上での噴火が確認された西之島では、噴火による噴石等の堆積や溶岩の流出が継続しています。新たに形成された陸地（西之島と接続した新島部分）の拡大の継続が確認されており、2014 年 5 月 21 日時点で、新たに形成された陸地の面積は噴火前の西之島の約 4 倍の約 0.9km² になっています。

西之島では噴火活動が継続しており、新たに形成された陸地、西之島旧島及びそれらの付近の海域では噴火に警戒してください。また、周辺海域では浮遊物に注意してください。

草津白根山〔火口周辺警報（噴火警戒レベル 2）〕

2014 年 3 月上旬から湯釜付近及びその南側を震源とする火山性地震が増加し、地殻変動観測によると湯釜付近の膨張を示す変動が認められています。湯釜火口内北東部や北壁及び水釜火口の北から北東側にあたる斜面で熱活動の活発な状態が継続しており、2014 年 5 月頃からは湯釜近傍地下の温度上昇を示すと考えられる全磁力変化がみられています。また、北側噴気地帯のガス成分にも活動活発化を示す変化がみられます。

以上のように、草津白根山の火山活動は活発化しており、今後、小規模な噴火が発生する可能性があることから、湯釜火口から概ね 1 km の範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。

霧島山（新燃岳）〔火口周辺警報（噴火警戒レベル 2）〕

GNSS 観測によると、新燃岳の北西数 km の地下深くにあると考えられるマグマだまりの膨張を示す地殻変動は、2011 年 12 月以降鈍化・停滞していましたが、2013 年 12 月頃から伸びの傾向がみられます。

新燃岳火口直下を震源とする地震は概ね少ない状態で経過しました。

また、新燃岳に隣接する韓国岳周辺では、2014 年 2 月頃から地震回数がわずかに増加しています。今後の火山活動の推移に注意する必要があります。

新燃岳では火口周辺に影響のある小規模な噴火が発生する可能性がありますので、新燃岳火口から概ね 1 km の範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。

各地方の主な活火山の火山活動評価

1. 北海道地方

① アトサヌプリ〔噴火予報（平常）〕

- 火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

② 雌阿寒岳〔噴火予報（噴火警戒レベル 1、平常）〕

- 火山活動は概ね静穏に経過しており、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められません。
- 全磁力連続観測によると、96-1 火口南側地下の温度が上昇している可能性があります。今後の火山活動の推移に注意してください。

③ 大雪山〔噴火予報（平常）〕

- 火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過

しており、噴火の兆候は認められません。

④ 十勝岳 [噴火予報（噴火警戒レベル 1、平常）]

- ・ 火山活動は概ね静穏に経過しており、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められません。
- ・ ここ数年、山体浅部の膨張、大正火口の噴煙量及び地震回数の増加、発光現象などが観測されています。また、吹上温泉地区では、1988～89年噴火の数年前からもみられた温泉のCl/SO₄比の上昇が、2012年からわずかながら認められています。今後の火山活動の推移に注意してください。

⑤ 樽前山 [噴火予報（噴火警戒レベル 1、平常）]

- ・ 火山活動は概ね静穏に経過しており、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められません。
- ・ 山頂溶岩ドーム周辺では、1999年以降、高温の状態が続いているので、突発的な火山ガス等の噴出に注意してください。

⑥ 倶多楽 [噴火予報（平常）]

- ・ 火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

⑦ 有珠山 [噴火予報（噴火警戒レベル 1、平常）]

- ・ 火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

⑧ 北海道駒ヶ岳 [噴火予報（噴火警戒レベル 1、平常）]

- ・ 火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

⑨ 恵山 [噴火予報（平常）]

- ・ 火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

2. 東北地方

① 岩木山 [噴火予報（平常）]

- ・ 火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

② 八甲田山 [噴火予報（平常）]

- ・ 東北地方太平洋沖地震（2011年3月11日）以降増加していた八甲田山周辺の地震は、今期間、少ない状況となりました。

- ・ 2013年4月から7月にかけて増加した大岳山頂直下の地震活動も、少ない状態で経過しました。
- ・ 2013年2月頃から11月頃にかけてみられていた小さな膨張性の地殻変動もみられません。
- ・ 地獄沼付近の噴気や地熱域の状況に特段の変化は認められませんでした。
- ・ 地震活動は継続しており、今後の火山活動の推移に注意してください。

③ 秋田焼山 [噴火予報（噴火警戒レベル 1、平常）]

- ・ 火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

④ 岩手山 [噴火予報（噴火警戒レベル 1、平常）]

- ・ 2013年には火山性地震が一時的にやや多くなることもありましたが、今期間、火山活動は静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

⑤ 秋田駒ヶ岳 [噴火予報（噴火警戒レベル 1、平常）]

- ・ ^{めだけ}女岳では、2009年から拡大している地熱域が引き続きみられますが、今期間は特段の変化は認められませんでした。
- ・ 地震活動は低調で、地殻変動及び噴気活動にも特段の変化はみられず、ただちに噴火する兆候は認められませんが、今後の火山活動の推移に注意してください。

⑥ 鳥海山 [噴火予報（平常）]

- ・ 火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

⑦ 栗駒山 [噴火予報（平常）]

- ・ 火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

⑧ 蔵王山 [噴火予報（平常）]

- ・ 火山性地震は少ない状況で経過し、火山性微動も観測されませんでした。
- ・ 地殻変動と表面現象等に特段の変化はみられず、ただちに噴火する兆候は認められませんが、2013年1月以降、地震活動に高まりがみられていることから、今後の火山活動の推移に注意してください。

⑨ 吾妻山 [噴火予報（噴火警戒レベル 1、平常）]

- ・ 大穴火口の噴気活動は、やや活発な状態が続いています。
- ・ 地震活動は少ない状態で経過し、地殻変動にも特段の変化はみられませんでした。
- ・ ただちに噴火する兆候は認められませんが、火口内では火山ガスの噴出がみられますので警戒してください。また、火口外でも風下側では火山ガスに注意してください。

⑩ 安達太良山 [噴火予報（噴火警戒レベル 1、平常）]

- ・ 火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

⑪ 磐梯山 [噴火予報（噴火警戒レベル 1、平常）]

- ・ 火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

3. 関東・中部地方、伊豆・小笠原諸島

① 那須岳 [噴火予報（噴火警戒レベル 1、平常）]

- ・ 火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

② 日光白根山 [噴火予報（平常）]

- ・ 火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

③ 草津白根山 [火口周辺警報（噴火警戒レベル 2、火口周辺警報）] ←平成26年6月3日に噴火警戒レベルを1（平常）から2（火口周辺規制）に引上げ

- ・ 3月上旬から湯釜付近及びその南側を震源とする火山性地震が増加しています。火山性微動は発生していません。
- ・ GNSSによる地殻変動観測では、2014年4月頃から湯釜を挟む基線でわずかな伸びの傾向がみられます。
- ・ 湯釜周辺の傾斜計にも湯釜付近の膨張を示す変動が認められています。
- ・ 湯釜火口内北東部や北壁及び水釜火口の北から北東側にあたる斜面で熱活動の活発な状態が継続しています。
- ・ 2014年5月頃から湯釜近傍地下の岩石の熱消磁によると考えられる全磁力変化がみられています。
- ・ 2014年5月に、北側噴気地帯の硫化水素ガス成分が急減しています。
- ・ 以上のように、草津白根山の火山活動は活発化しており、今後、小規模な噴火が発生

する可能性があることから、湯釜火口から概ね1kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。

④ 浅間山 [噴火予報（噴火警戒レベル 1、平常）]

- ・ 火山性地震は、2010年4月以降やや少ない状態で推移しています。
- ・ 二酸化硫黄の放出量は、2010年3月以降やや少ない状態で推移しています。
- ・ 山体周辺のGNSSによる地殻変動観測では、2009年秋頃から縮みの傾向がみられます。
- ・ 火山活動は静穏な状態が続いていますが、山頂火口から500mの範囲では、火山灰噴出や火山ガス等に警戒してください。

⑤ 新潟焼山 [噴火予報（噴火警戒レベル 1、平常）]

- ・ 火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

⑥ 弥陀ヶ原 [噴火予報（平常）]

- ・ 東北地方太平洋沖地震（2011年3月11日）以降、周辺で地震活動が活発な状況となりました。その後、周辺の地震活動は低下しつつも継続しています。
- ・ 立山地獄谷では以前から熱活動が活発でしたが、2012年6月以降の観測で噴気の拡大・活発化や温度の上昇傾向が確認されており、今後の火山活動の推移に注意して下さい。また、この付近では火山ガスに注意してください。

⑦ 焼岳 [噴火予報（噴火警戒レベル 1、平常）]

- ・ 5月3日から焼岳山頂の北側数kmを震源とする地震活動が活発化しました。このうち最大規模の地震は、3日15時26分に深さ3kmで発生したマグニチュード3.9（最大震度3）の地震でした。この活動は5月6日以降低調になっています。
- ・ 火山性微動は観測されず、地殻変動や北峰付近及び岩坪谷上部の噴気の状態等には特段の変化はみられず、噴火の兆候は認められません。

⑧ 乗鞍岳 [噴火予報（平常）]

- ・ 火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

⑨ 御嶽山 [噴火予報（噴火警戒レベル 1、平常）]

- ・ 火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

⑩ 白山 [噴火予報（平常）]

- ・ 火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

⑪ 富士山 [噴火予報（噴火警戒レベル 1、平常）]

- ・ 2011年 3 月 15 日に山頂の南南西約 5 km、深さ 15 km を震源とする静岡県東部の地震（マグニチュード 6.4、最大震度 6 強）が発生しました。それ以降、その震源から山頂直下付近にかけて地震活動が活発な状況となりました。その後、地震活動は低下しつつも継続しています。
- ・ その他の観測データに異常を示すものはなく、噴火の兆候は認められません。

⑫ 箱根山 [噴火予報（噴火警戒レベル 1、平常）]

- ・ 火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

⑬ 伊豆東部火山群 [噴火予報（噴火警戒レベル 1、平常）]

- ・ 火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

⑭ 伊豆大島 [噴火予報（噴火警戒レベル 1、平常）]

- ・ 長期的には、地下深部へのマグマ供給によると考えられる島全体の膨張傾向が継続していますが、2011 年頃から鈍化してきています。
- ・ 最近の変化をみると、GNSS 観測では、2013 年 4 月頃から縮みの傾向がみられていましたが、2013 年 8 月頃から伸びの傾向がみられています。傾斜観測でも、2013 年 4 月頃から山下がりの傾向がみられていましたが、2013 年 8 月頃から山上がりの傾向がみられています。体積ひずみ計の観測では、2013 年 4 月頃からは停滞していましたが、2013 年 8 月頃から再び伸びの傾向がみられています。
- ・ その他の観測データには特段の変化はなく、火山活動は静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

⑮ 新島 [噴火予報（平常）]

- ・ 火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

⑯ 神津島 [噴火予報（平常）]

- ・ 火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

⑰ 三宅島 [火口周辺警報（噴火警戒レベル 2、火口周辺規制）]

- ・ 今期間、噴火は発生しませんでした。噴火は 2013 年 1 月 22 日を最後に発生していません。
- ・ 山頂浅部を震源とする地震は、3 月 22 日に一時増加しましたが、その他の期間は概ね少ない状態です。3 月 22 日の地震の増加に伴い傾斜計にわずかに山体膨張を示す変動が観測されましたが、地震回数の減少に伴い収まりました。
- ・ GNSS による観測では、山体浅部の収縮を示す地殻変動は徐々に小さくなり、2013 年頃から停滞しています。一方、島の南北を挟む長距離の基線で 2006 年頃から伸びの傾向がみられるなど、山体深部の膨張を示す地殻変動が継続しています。
- ・ 二酸化硫黄の放出量は長期的には緩やかな減少傾向にあり、期間中は 1 日あたり 200 トンと、やや少量の火山ガス放出が続きました。
- ・ 火口周辺に影響を及ぼす程度の噴火が発生する可能性がありますので、火口周辺（雄山環状線内側）では引き続き噴火に警戒してください。風下にあたる地区では火山ガスに警戒してください。

⑱ 八丈島 [噴火予報（平常）]

- ・ 火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

⑲ 青ヶ島 [噴火予報（平常）]

- ・ 火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

⑳ 西之島 [火口周辺警報（入山危険）] ←平成 26 年 6 月 3 日に火口周辺警報を火口周辺危険から入山危険に引き上げ

- ・ 2013 年 11 月 20 日に南東海上での噴火が確認された西之島では、噴火による噴石等の堆積や溶岩の流出により、出現した新島が拡大し、2013 年 12 月 26 日には西之島と一体となりました。
- ・ その後も噴火活動は継続し、新たに形成された陸地（西之島と接続した新島部分）の拡大が確認されており、2014 年 5 月 21 日時点で、新たに形成された陸地の面積は噴火前の西之島の約 4 倍の約 0.9 km² になっています。

- ・ また、2014年5月初旬までに噴出したマグマの量は約3千万m³と見積もられており、マグマの噴出レートは2013年11月以降、1日あたり約18万m³程度で推移しています。
- ・ 噴火確認以降、西之島周辺で常に変色水が確認されています。
- ・ 2013年11月21日以降、気象衛星「ひまわり」の観測でも西之島周辺の熱異常域と噴煙を確認しました。
- ・ 西之島では噴火活動が継続しており、新たに形成された陸地、西之島旧島及びそれらの付近の海域では噴火に警戒してください。また、周辺海域では浮遊物に注意してください。

②① 硫黄島 【火口周辺警報（火口周辺危険）】

- ・ 島西部のミリオンダラーホール（旧火口）では、2012年2月以降ごく小規模な水蒸気爆発が度々発生していますが、今期間は噴火は確認されていません。
- ・ 地震は3月からやや多い状態で経過しました。火山性微動も時々観測されています。
- ・ GNSSによる地殻変動観測では、2013年11月頃からの沈降の傾向が、2014年1月頃から停滞していましたが、2月下旬頃から隆起の傾向がみられています。なお、島内南北方向の伸びの傾向は継続しています。
- ・ 硫黄島では火口周辺に影響を及ぼす程度の噴火が発生すると予想されますので、従来から小規模な噴火が発生した地点及びその周辺では警戒してください。

②② 福德岡ノ場 【噴火警報（周辺海域警戒）】

- ・ 変色水が確認されており、小規模な海底噴火が発生すると予想されますので、周辺海域では警戒してください。

4. 九州地方・南西諸島

① 鶴見岳・伽藍岳 【噴火予報（平常）】

- ・ 火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

② 九重山 【噴火予報（噴火警戒レベル1、平常）】

- ・ 火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

③ 阿蘇山 【噴火予報（噴火警戒レベル1、平常）】 ←平成26年3月12日に噴火警戒レベルを2（火口周辺規制）から1（平常）に引下げ

- ・ 2014年1月13日から2月19日までごく小規模な噴火が時々発生しましたが、それ以

降、噴火は発生しておらず、孤立型微動や火山性地震は少ない状態で経過しました。このことから、中岳第一火口の火山活動は低下し、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められなくなったと判断し、3月12日に噴火予報を発表し、噴火警戒レベルを2（火口周辺規制）から1（平常）に引下げました。

- ・ 中岳第一火口では、火口内にとどまる程度の灰白色の噴煙が、現地観測時には常に確認されました。火口中央部にある噴気孔では、4月に温度の上昇が認められました。また、南側火口壁の温度はやや高い状態で経過しました。
- ・ 火山性地震、孤立型微動とも少ない状態で経過しました。3月19日に継続時間の短い火山性微動を2回観測しました。
- ・ 二酸化硫黄の放出量は、2月5日に1日あたり2,300トンと多い状態でしたが、2月21日以降はやや減少し、700～1,700トンとやや多い状態で経過しました。
- ・ 火口内では土砂や火山灰を噴出する可能性があります。また、火口付近では火山ガスに注意してください。
- ・ 南阿蘇村吉岡の噴気活動はやや活発な状態が続いており、引き続き噴気活動に注意してください。

④ 雲仙岳 【噴火予報（噴火警戒レベル1、平常）】

- ・ 火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

⑤ 霧島山

新燃岳 【火口周辺警報（噴火警戒レベル2、火口周辺規制）】

- ・ 新燃岳では、2011年9月7日を最後に噴火は発生していません。
- ・ 火口内に蓄積された溶岩の状態に特段の変化はありませんでした。火口内南東側の火孔の形状にも特段の変化はみられませんでした。しかし、火口にたまった溶岩内部には依然高温状態の部分もあると考えられます。
- ・ 新燃岳直下を震源とする火山性地震は少ない状態で経過しました。火山性微動は2012年3月以降観測されていません。
- ・ GNSS観測によると、新燃岳の北西数kmの地下深くにあると考えられるマグマだまりの膨張を示す地殻変動は、2011年12月以降鈍化・停滞していましたが、2013年12月頃から伸びの傾向がみられており、今後の推移に注意する必要があります。

- ・ 新燃岳に隣接する韓国岳周辺では、地震がわずかに増加しています。震源は、大浪池付近の海拔下約 2～5 km、韓国岳付近の海拔下約 1～3 km 及び韓国岳北東側の海拔下約 0～2 km に分布しました。
- ・ 新燃岳火口から概ね 1 km の範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。
- ・ 降雨時には泥流や土石流に注意してください。

御鉢 【噴火予報（噴火警戒レベル 1、平常）】

- ・ 火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

⑥ 桜島 【火口周辺警報（噴火警戒レベル 3、入山規制）】

- ・ 昭和火口の噴火活動は、前期間（2013年10月から2014年1月）より低下したものの依然として活発な状態で経過しました。
- ・ 爆発的噴火の発生回数は、期間中（2014年2月から5月10日）114回で、うち2回で大きな噴石が3合目（昭和火口より1,300～1,800m）まで達しました。噴煙の高さが火口縁上3,000m以上の噴火は3回発生し、最高は火口縁上4,500m（5月10日13時07分の爆発的噴火）でした。火口周辺にとどまるとごく小規模な火砕流が1回発生しました。
- ・ 南岳山頂火口では、ごく小規模な噴火が発生しました。
- ・ 二酸化硫黄の放出量は、1日あたり1,900～2,900トンと概ね多い状態が続いています。
- ・ 鹿児島県の降灰観測データをもとに解析した火山灰の月別の噴出量は、2014年1月～4月は20万～30万トンでした。
- ・ 島内の傾斜計、伸縮計及びGNSSでは、2013年7月頃から山体のわずかな沈降、収縮が続いていましたが、2014年1月頃から山体が隆起、膨張する傾向がみられます。
- ・ 火山灰の放出量と地殻変動量から導いた桜島直下へのマグマの供給量は、2013年7月頃から2014年1月頃にかけて減少し、2月以降大きな変化はありませんでした。
- ・ GNSSによる地殻変動観測では、始良カルデラ（鹿児島湾奥部）の膨張を示す伸びの傾向は、2013年6月頃から停滞していますが、長期的には膨張が進行してきています。
- ・ 昭和火口及び南岳山頂火口から概ね2 km の範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石及び火砕流に警戒してください。風下側では火山灰だけでなく小さ

な噴石（火山れき）が遠方まで風に流されて降るため注意してください。爆発的噴火に伴う大きな空振によって窓ガラスが割れるなどのおそれがあるため注意してください。また、降雨時には土石流に注意してください。

⑦ 薩摩硫黄島 【噴火予報（噴火警戒レベル 1、平常）】

- ・ 火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められませんが、硫黄岳火口では噴煙活動が続いており、火山灰等の噴出する可能性があります。また、火口付近では火山ガスに注意してください。

⑧ 口永良部島 【噴火予報（噴火警戒レベル 1、平常）】

- ・ 火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められませんが、新岳火口内では噴気活動が続いており、火山灰等の噴出する可能性があります。また、火口付近では火山ガスに注意してください。

⑨ 諏訪之瀬島 【火口周辺警報（噴火警戒レベル 2、火口周辺規制）】

- ・ 御岳火口では、爆発的噴火が2月に7回、3月に1回、4月に2回発生しました。爆発的噴火に伴う空振の最大振幅は、2月11日19時14分に観測した31Paでした（火口から南南西約4 km の榑戸原観測点による）。また、ごく小規模な噴火が時々発生しました。
- ・ 噴煙の高さの最高は、火口縁上1,000mでした。また、同火口では夜間に高感度カメラで火映を時々観測しました。
- ・ 諏訪之瀬島周辺を震源とするA型地震は、2014年2月から4月までの月回数が43～84回とやや多い状態で経過しました。B型地震は、2014年2月から4月までの月回数が40～108回とやや多い状態でした。また、火山性微動が断続的に発生しました。
- ・ 今後も火口周辺に影響を及ぼす噴火が発生すると予想されますので、火口から概ね1 km の範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。風下側では火山灰だけでなく小さな噴石が遠方まで風に流されて降るおそれがあるため注意してください。